

# 金沢で合同フォーラム

県士3会  
北診

## JCI 中部支部 連携強化を推進

日本コンクリート工学会  
（JCI）中部支部は

8月26日、石川県金沢市の  
金沢大学で、福井、石  
川、富山の北陸3県のコ

ンクリート診断士会によ  
る連携推進事業として  
「コンクリート構造物の  
調査・診断技術の向上に  
関するフォーラム」を開  
催した。3県の診断士会  
が抱える維持管理の技術

的課題について、各分野  
の専門家を招いて論じ合  
う。パネルディスカッショ  
ン、特別講演が行われ、  
島根県など他県の診断士

を含め、100人超の参  
加者を集めた。

連携推進事業代表で福  
井県コンクリート診断士  
会の石川裕夏会長（福井  
宇部生コンクリート）

は、「冒頭のあいさつで  
「北陸地区は、コンクリ  
ート構造物がASRなど  
の厳しい劣化環境に置か  
れており、元々維持管理  
の意識が高く、3県とも  
に全国に先駆けて診断士  
会が設立された。連携推  
進事業として、『維持管  
理技術の向上』『コンク  
リート診断士の役割』の

2つのテーマのもと活動  
を進める」と語った。

同事業は、JCI中部  
支部の会員活性化のため  
の活動費用助成事業に採  
択され、昨年度から2年  
間の活動をスタート。昨  
年度は各県の診断士会が  
個別に活動、今年度は初  
の試みとして、計2回の  
合同フォーラムを開催す  
る。

今回の石川県主幹のフ  
ォーラムでは、維持管理  
技術の向上を目指すこと  
がテーマ。パネルディス  
カッション「コンクリー  
トの維持管理の疑問点と  
その回答」には、コーデ  
ィネーターとして鳥居和  
之金沢大学教授、パネリ  
ストとして中日本ハイウ  
エイ・エンジニアリング  
名古屋金沢支店道路技術  
部の青山實伸氏、オリエ  
ンタル白石福岡支店施工  
・技術部技術企画チーム  
の角本周氏、葛目和宏国  
際建設技術研究所社長、  
川田工業橋梁事業部東京  
技術部の橋吉宏氏、住友  
大阪セメント建材事業部  
の若杉三紀夫技師長が参  
加した。

各パネリストが、AS  
Rや塩害などの劣化要  
因、橋梁の補修・耐久性  
向上についての対策事  
例、非破壊試験、補修材  
料や工法を解説したの  
質問や意見を事前に募  
つたところ、補修材料に  
関するものが3割を占  
め、高炉セメントB種を  
使用したコンクリートの  
初期強度や、セメントの  
廃棄物・副産物使用量の  
上昇により起こりうる問  
題について質問が出た。  
「高炉B種コンは、発注  
者側から初期強度が求め  
られ、セメントのブレー  
ン値が高まつたことがひ  
び割れ要因になつてい  
る。セメントの廃棄物使  
用量が増えると、アルミ  
ン酸三石灰やアルカリ骨  
材反応により、諸問題が  
生じる可能性がある」

（鳥居教授）と説明した。  
特別講演は、不和大仁  
石川県議会議員の「新幹  
線の開業を目前に控えた  
金沢市の社会インフラの  
整備と維持管理」、アス  
テックの安達實氏の「北  
陸三県における橋梁の歴  
史的変遷と伝承したい橋  
いろいろ」。

次回のフォーラムは11  
月25日に福井で開催す  
る。福井県が主幹し、将  
来の維持管理のあり方と  
診断士の社会的役割を話  
し合う。来年度以降は、  
連携推進事業で得られた  
知見を各県の活動に反映  
させるとともに、全国組  
織の日本コンクリート診  
断士会の活動にも役立て  
る考えだ。